

学校関係者評価委員会

実施日：平成31年2月8日（金）午後7時30分～午後9時30分

会 場：双葉東小学校校長室

参加者：（学校関係者評価委員）

・学校評議員 大澤 孝彦・石塚 邦夫・古屋 秀雄・石川 和子
奥山 勝也（欠席）

・PTA 代表 田中 朋子・飯室 眞理

（学校側）

・校 長 守木 貴 ・教 頭 浅利 進 ・主幹教諭 堀内 貴司

I 学校側から提案された内容

- ・「学校関係者評価」の意味、位置づけなどについて
- ・学校経営方針について
- ・「自己評価（教職員）」の結果及び改善策について
- ・「児童アンケート」の結果及び改善策について
- ・「保護者アンケート」の結果及び改善策について
- ・その他

II 協議された主な内容

- ・「自己評価（教職員）」の結果からの課題
- ・「児童アンケート」の結果からの課題
- ・「保護者アンケート」の結果からの課題
- ・その他

<学校関係者評価書>

I 全体評価

双葉東小学校の教職員によるアンケートと児童用アンケート結果及び保護者用アンケート結果は、総じて良好の水準にあると言える。教職員アンケートはほとんどの項目で肯定的評価（A・B）が昨年より向上していた。また、児童アンケートでも多くの設問において、肯定的評価（A・B）が向上していた。保護者アンケート結果においても、学校に対する事柄の項目は、2項目以外は肯定的な結果（A・B）が80%を超えていた。このことから、教職員も児童・保護者も、双葉東小学校の教育活動に対して、概ね満足していることがうかがえる。

II 特 徴

教師のアンケート結果は、全体的に高い成果を上げていると考えられる。ほとんどの項目において、肯定的評価が90%を超え、本校の教職員としての意識と責任をもって校務に当たっていると考えられる。しかし、外国語教育や地域との連携については肯定的評価が90%以下となり、不安をもつ教職員もいるようである。

保護者アンケートでは、学校に関わるほとんどの項目で肯定的な評価が80%を超えていた。また、子どもにとって学校が楽しいところであるという設問の肯定的評価が90%を超えていることから、保護者が本校の教育活動に理解を寄せていることが確認できる。

児童のアンケートも肯定的評価が90%を超える設問が多く、本校が安心して楽しく過ごせる場所であると考えられることができる。本校の特色である「朝読書」も、ボランティアの方の「読みますクラブ」の協力もあり成果を上げている。児童会やPTAの取組もあり、本校の児童はあいさつができていることに肯定的な評価が92%を超えている。あいさつをするように心がけていると感じている児童は少なくないと確認できる。一方、保護者アンケートでは、あいさつについて必ずしも肯定的な評価を得ていない面もやや見られる。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

○防犯，防災について

- ・先日，学区内で児童の家に火災があった。学校として，どのような対応ができたか。子ども達にも知らせることで，防災に対する啓蒙になるのではないか。
- ・本校には防犯カメラが設置されている。不審者に対する抑止効果になっている。学校にとって，死角になる場所について気をつけておきたい。

○児童のあいさつについて

- ・本校の子ども達はあいさつに対する取組を児童会活動等を通じて行っているが，地域でのあいさつはやや消極的である。集団だと声大きい，一人になると声が小さくなる。
- ・登下校の際に，見守りの方が声をかけるようにしている。ただ，ベストを着て，見守りの人と分かる服装ならあいさつはするが，私服の時にはあいさつはしない。不審者について学校でも指導があるので，地域でのあいさつは難しいところがあるかもしれない。
- ・近年の様子の中では，本年度は特に高学年のあいさつの声に元気がない場合があるように感じている。
- ・あいさつは，自分が他者を認識したり，他者へ自分を認めてもらう一歩となる。キャリア教育の基本となる取組である。
- ・先生に言われてあいさつするのではなく，家庭で指導していくことも必要である。子ども達だけで取組を続けるのは難しい。保護者の方も互いにあいさつをすることへの意識を高めることが必要である。多くの大人も関わりながら，あいさつに対する意識を高めていきたい。
- ・形や声から入るあいさつ指導も大切にしたいし，良好な人間関係づくりを大切にする中で自然に育まれるあいさつへの意識を大切にしたい面もある。
- ・登校の見守りをしていると，道路にゴミが落ちていることがある。タバコやビン，ペットボトルなど，車から投げ捨てる人もいる。子どもにはよい影響を与えない。大人達も考えて欲しい事案である。

○学習について

- ・児童のアンケートでは，本校の家庭学習の目安（学年×10分＋10分）の時間勉強をしているの肯定的評価は80%を超えている。多くの子どもは家庭学習に取り組んでいると考えられる。
- ・自主学習には塾の時間は入れないと書いてあるが，含めてもよいように思う。（塾も自主的な学習ではないか）
- ・子どものアンケートの答えの「とてもそう思う」と「そう思う」には差があると考えられる。できる子とそうでない子には差があり，同じ宿題でも時間のかかり方が違う。また，自主学習とは本来自分で考え自主的に学習することなのだが，学校で自主学習そのものを宿題にしている場合もある。そうすると，子どもの能力によって取り組む内容の基準について考える必要もあるのではないか。
- ・自主学習は続けていくと，中学校になっても勉強する習慣がついてよい。

○不登校児童について

- ・本校には不登校の児童がいるが，どのような対応を取っているか。（別室・保健室へ登校し，支援員，養護教諭を中心とした対応，担任教師からの働きかけ等）

○その他（話題として上がったこと）

- ・双葉中学校のあいさつの取組がよい。小学校でもそれを見て刺激になれば。
- ・教員の登校指導の際，旗振りで協力している保護者への声かけ（あいさつ，自己紹介）がない職員がいる。どんどん声をかけて欲しい。
- ・最近の子どもは，家に帰ると塾や習い事，ゲームなどが多く，友達と一緒に遊ぶことや，近所との交流は少ないのではないか。
- ・中学校では合唱の取組が盛んな学年は色々なことがよくできると聞いている。小学校も合唱によく取り組んでいる。頑張っている。
- ・学校としては，アンケート項目にある言葉（例 キャリア教育，評価規準，自主学習等）の意味や内容を，できるだけ多くの人との間で共有して設問に答えていけるよう，平常からの広報・啓発や，説明を心がけていきたいと思う。

